

# 特集

## “ALL SECOM”で未来を見据えた新サービス創出に挑む

セコムは、未来を見据えて「セキュリティ」「超高齢社会」「災害・BCP・環境」の分野で社会のニーズを的確に捉えたサービス創出に“ALL SECOM”で取り組み、さらなる成長をめざします。

### □セコムの事業を支える

#### 3つの経営基盤

セコムの経営基盤の中で、競争力の源泉となっているのが「技術力」「人財」「オペレーション体制」です。

「技術力」としては、セコムIS研究所が「社会システム産業」を構築する上で必要となるコア技術の創出に組み込み、セコム開発センターがその基盤技術を生かして、お客様の声を反映させた独創的で信頼性の高いシステムを開発しています。セコムは、セキュリティ市場における競争優位性を確保する上で、「技術力」が重要な経営資源のひとつであると捉えており、社会動向、犯罪動向、技術動向などを見据えて、システムを開発・提供しています。

「人財」としては、全国4カ所の研修センターで、緊急対処員をはじめ営業員、管理担当者などが、知識や技能に加えて、「セコムの理念」や安全のプロフェッショナルとしての行動規範を習得

することにより、質の高いサービスの提供を実現しています。

「オペレーション体制」としては、「セキュリティ」分野では、全国47カ所に配置した「セコム・コントロールセンター」を核に、



「セキュアデータセンター」

ご契約先に設置したセンサーなどのセキュリティ機器を通信回線で結び、同センターの管制員が24時間監視しています。異常時には、2,800カ所を超える緊急発進拠点の緊急対処員が対応にあたります。セコムでは、侵入・火災などの異常の監視はセキュリティ機器を活用し、判断力や対応力を必要とする場面では緊急対処員が、迅速かつ的確に対応しています。

「超高齢社会」をテーマとしたサービスの運営は、「セコム・メディカルサポートセンター」が支えています。同センターでは、健康・医療・介護・看護などに関するあらゆる相談や問い合わせに、セコムの看護師・保健師・栄養士などの専門スタッフが対応しています。

また「災害・BCP・環境」の分野では、「セコムあんしん情報センター」がさまざまなサービスの運営を支えています。同センターでは、災害発生時に、公的な避難情報やインターネットの情報などにセコム独自の情報を加えたビッグデータを分析し、本当に役立つ、より正確な情報をお客様に素早く的確に提供しています。

セコムは、経営基盤の中核に位置づけるデータセンターで、ビッグデータを有効活用することにより、社会の変化に伴って生まれるニーズに対応したサービスやシステムの創出に取り組んでいます。さらに、新たなサービス提供の核となる「セコム・コントロールセンター」「セコム・メディカルサポートセンター」「セコムあんしん情報センター」が連携すること

で、“ALL SECOM”による「安全・安心・快適・便利」な社会の実現に向けて邁進しています。

### □超高齢社会に対応したモデルタウンづくりを推進

超高齢社会では、健やかで快適な老後生活を送るためのサポートサービスへのニーズが高まっています。例えば、高齢者施設への入居を検討している方が、ご自宅で医療や介護サービスを受けることができれば、安心してご自宅で暮らすことが可能です。このような社会のニーズを見据え、「セコム在宅総合ケアセンター久我山」では、「家で暮らす当たり前の幸せをいつまでも支える」をモットー

“ALL SECOM”で取り組みを強化する「3つの領域」



オペレーション体制



に、セコムの提携病院である久我山病院と連携し、患者様が退院後もご自宅で安心して療養生活が送れるように支援する環境を整え、“地域医療連携”を実現しています。

また、セコムは2015年4月に同地域において、ご高齢の生活者の目線で、暮らしの「お困りごと」を見つめ直し、お客様の満足度をより高いレベルに引き上げることを目的として「セコム暮らしのパートナー久我山」を開設しました。この地域には、セコム在宅総合ケアセンター久我山、久我山病院、セコム訪問看護ステーション、セコム薬局、介護付有料老人ホームなど、セコムの多くの拠点があり、これらの事業基盤の活用とセコム以外のさまざまなサービス事業者とも連携することで、地域に密着した包括的

なサービス提供が可能です。今後、セコムは暮らしの相談窓口「セコム暮らしのパートナー久我山」で得られるノウハウを生かし、「安全・安心・快適・便利」な社会を支える新たなサービスを拡充し、より豊かな超高齢社会の実現に積極的に取り組んでいきます。

□民間防犯用に

「セコム飛行船」を開発

セコムは、これまで培ってきた画像認識技術やセンシング技術、そして飛行ロボット技術などのセキュリティサービスと防災、情報通信のノウハウを融合し、広域エリアの防犯・災害対策用として「セコム飛行船」の試作機を開発しました。この飛行船は、複数台の高精細カメラ、熱画像カメラ、指向性スピーカー、集音マイク、サーチライトなどを搭載し、広域を詳細に監視できます。「セコム・コントロールセンター」が、飛行船からの画像・音声情報と、地上に設置された防犯センサーや防犯カメラ、小型飛行監視ロボットなどから得られる情報を組み合わせ、上空と地上から対象エリアを監視することにより、これまでにない高次元の

セキュリティを実現します。また、この飛行船は、上空から広域にわたる人や車の混雑状況や災害時の被災状況などに関する画像を、リアルタイムで収集できるので、災害時には、飛行船からの画像による災害情報を収集・解析し、「セコムあんしん情報センター」と連携することで、より迅速な状況把握や的確な避難誘導が可能となります。

セコムは、大規模なイベントを開催する競技場や広大な敷地のセキュリティ強化などで活用できる「セコム飛行船」の研究開発を2016年中の実用化に向けて進めています。

□切れ目のない監視体制を活用し “ALL SECOM”で新サービスを創出

セコムは、高度500～900kmから人工衛星を活用して天候に影響されない地形データを、高度1,000～2,000mからセスナ機で都市レベルの地形データを、地上から移動計測車両（モービルマッピングシステム）で構造物や地形の高精度3次元データを、それぞれ収集・加工・処理・解析することで、災害発生時の状況把握、環境保全対策や道路の劣化などリスク評価を支援する空間情報サービスを提供し、社会に貢献しています。

また、高度100～250mからは、「セコム飛行船」の高精細カメラで広域を、高度3～50mからは小型飛行監視ロボットで不審車・不審人物を、地上に設置したカメラやセンサーで人や建物を、監視します。異常を感知すると、緊急対応員が現場に急行するサービスも備えており、より迅速に広範囲の安全を見守ることが可能です。

セコムは、高度900kmから地上までの切れ目のない監視体制を活用し、“ALL SECOM”で新たなサービスやシステムの創出に努め、社会システム産業の実現に向かって、さらなる成長をめざしていきます。

